



実証圃場で意見交換をする生産者ら

### いざ！20億円販売必達を目指して

ねぎ部会（大塚和浩部会長）の夏ねぎ現地巡回講習会は6月17日に、約50名が参加して開催されました。

今年は越冬早取り苗の定植作業が3月末を最盛に管内で一斉に行われましたが、5月以降の断続した降雨により、秋冬ネギの定植や土崩し等の作業に遅れも目立ちました。しかし、生産者の懸命な力カバリーにより生育は順調とのこと。

営農企画課佐藤課長補佐は「べと病」が発生しやすくなるが、感染前の予防防除が重要なポイント。病害虫防除など徹底管理に努めてもらいたい。」と「白神ねぎ」メールマガジン等を活用して注意を促します。



桃子大滝の前で記念撮影



### 高校生インターシップ受け入れ。共に荷下ろし作業に汗

能代支援学校高等学校等の男子生徒が、「白神きゃべつ」の出荷で慌ただしさをみせる能代営農センターで、インターンシップ（就業体験）を行いました。

次々と運び込まれる「白神きゃべつ」の荷下ろし作業をJA職員と一緒に汗だくになって2週間頑張ってくれました。

作業体験した生徒は「荷下ろし作業は重労働でしたが、JA職員の一員になったつもりで働けて、楽しく良い体験ができました。」と話してくれました。

一緒に汗を流した能代営農センターの佐藤勝明さんは「2週間も即戦力としてよく頑張ってくれた。是非とも就業先の選択肢の一つに考えてもらいたい。」と別れを惜しんでいました。



汗を流しながら荷下ろし作業をする男子生徒

### コロナ禍のストレスもリフレッシュ

6月20日のノルディックウォーキング体験会は25人が参加して行われました。

「白神ノルディックウォーキング倶楽部（くらぶ）」の佐々木昇代表らを講師に迎え、十和田湖の湖畔で準備運動と、ボールの扱い方などの指導を受けたあと、新緑薫る青森県の奥入瀬渓流に沿って約9キロメートルを約3時間かけてポールを使って歩きました。

男性参加者（62歳）は「新緑の中様々な滝や溪流を眺めながら気持ち良い汗を流したことで、コロナ自粛によるストレスや日々の仕事によるストレスも、綺麗な溪流に流すことが出来た。来年もまた参加したいと思う。」と笑顔を見せてくれました。

このイベントは、「JA健康寿命100歳プロジェクト」の一環で行われ、昨年に続き7回目の開催。来年も多数のご参加お待ちしております！



溪流沿いの景色を楽しみながらウォーキングする参加者ら



念入りに梱包方法を確認する生産者

### 発色鮮やかな「白神りんどう」出番!!

りんどう部会（桂田浩樹部会長）は、6月23日に初出荷となった「白神りんどう」の新盆需要ピークに備え、品質や荷受け体制、販売情勢等を確認する目ざろい会を部会員や市場関係者ら約25人が参加して開催されました。

営農指導員の大高主査からは「昨年度多かった病害について、も生産者の徹底した防除管理により、大きな被害は確認されていない。体調管理に気を付けながら「白神りんどう」の名を全国に流通させましよう。」と生産者を激励。

市場関係者から梱包時の注意点等が説明され、参加者は、実際に梱包作業を行うなど念入りに確認していました。

今年度は生産者一丸となって3528万円（前年度対比105%）の販売高を目指します！



生育状況を確認する生産者



出荷規格を念入りに確認する生産者

### 野焼き・不法投棄根絶に向けて廃プラ回収

管内3地区の営農センターで一斉に農業用使用済廃プラスチック回収をドライブスルー方式で行いました。

廃プラスチックを持ち込んだ農家組合員に担当職員は、農業の進捗状況を確認するなどコミュニケーションを図りながら作業をしていました。

この日廃プラスチックを管内3地区の営農センターに持ち込んだ農家組合員は延べ77人。約10トンの廃プラスチックが回収されました。

廃プラスチック回収作業は、農家生産者の資材廃棄を手助けすることで、野焼きや不法投棄などの違法行為を未然に防ぐことを目的に毎年行われている。今年度も年3回開催することとしており、次回回収は11月に予定しています！



手際よく荷下ろし作業するJA職員と青年部員

園芸部会は、6月15日スナップエンドウ現地栽培講習会と目ざろい会を開催しました。

春先より天候の変動が大きく、特に4月の低温、5月の日照不足により栽培管理の難しいシーズンとなりましたが、生産者個々の徹底した栽培管理により、管内のスナップエンドウは7月中旬頃まで順調に収穫作業が続きました。

JA管内では29人の生産者がスナップエンドウ栽培に取り組み、今年度1000万円以上の販売額を目指しています。

講習会にはスナップエンドウ生産者や、JA全農あきた、能代市農業技術センター職員など約30人が参加し、生育状況や病害虫防除の徹底、出荷規格を確認し高品質出荷の認識を共有しました。

二ツ井営農センター高橋営農指導員は適期収穫期を見逃すことなく、莢（サヤ）の膨らみが規格品に適合するかを見極め、未成熟莢（サヤ）の採り急ぎに注意してもらいたいなど収穫上の留意点を説明。

生産者の池端伸吾さん（38）は「これから収穫作業が本格化するが、病害虫防除を徹底しながら、高品質なスナップエンドウを計画的に出荷していきたい」と意気込みます。

園芸部会は、6月15日スナップエンドウ現地栽培講習会と目ざろい会を開催しました。

春先より天候の変動が大きく、特に4月の低温、5月の日照不足により栽培管理の難しいシーズンとなりましたが、生産者個々の徹底した栽培管理により、管内のスナップエンドウは7月中旬頃まで順調に収穫作業が続きました。

JA管内では29人の生産者がスナップエンドウ栽培に取り組み、今年度1000万円以上の販売額を目指しています。

講習会にはスナップエンドウ生産者や、JA全農あきた、能代市農業技術センター職員など約30人が参加し、生育状況や病害虫防除の徹底、出荷規格を確認し高品質出荷の認識を共有しました。

二ツ井営農センター高橋営農指導員は適期収穫期を見逃すことなく、莢（サヤ）の膨らみが規格品に適合するかを見極め、未成熟莢（サヤ）の採り急ぎに注意してもらいたいなど収穫上の留意点を説明。

生産者の池端伸吾さん（38）は「これから収穫作業が本格化するが、病害虫防除を徹底しながら、高品質なスナップエンドウを計画的に出荷していきたい」と意気込みます。

# 各校食農教育活動盛んに! 友達と元気に定植頑張りました!!



大変だった手植え作業も友達となら楽しく出来ました。

能代市立向能代小学校の5年生児童64人は、総合的な学習の時間で「ねぎの秘密探り隊」というテーマのもと、地元の特産品である「白神ねぎ」について学習を進めています。6月11日には能代市ねぎ課職員とJA青年部員10人が講師役となり、「白神ねぎ」の定植作業体験学習を行いました。

定植作業体験を終えた佐藤寧音さんは「祖父の農作業は手伝ったことはあるが手植え作業は初めて。友達と一緒に楽しく作業が出来て、収穫時期が今から待ち遠しい。」と笑顔。佐藤奏芽くんは「父のねぎのお仕事をいつも手伝っているから移植機での定植は簡単だった。でも、手植えは初めてで、昔の人は大変だったろうなと思った。」と汗を拭った。

同校ではねぎが収穫される10月までの間、疑問点をさらに探求して、特産「白神ねぎ」を通じて食と農について理解を深めます。

## 白神ねぎの定植作業を初体験!?



「白神ねぎ」畑の中心で元気よく!



願いを込めて丁寧に定植

## 育てることから食べるまで学ぶ

女性部能代支部は6月10日、能代市立浄城西小学校5年生を対象に農業体験学習を開き、カボチャとサツマイモを定植しました。児童らは女性部員のサポートを受けながら、太陽の昇る方向に葉が向くように注意して丁寧に定植して、「大きくなつてね」と願いながらたっぷり水をかけていました。

同校の平川玲衣さんは「今回植えたサツマイモは大好き。蒸かして芋や、焼き芋にして早く食べたい」と話し、渡辺夏凜さんも「4月に植えたジャガイモが立派に育っていて次回の収穫作業が楽しみ。じゃがバターにして早く食べたい。」と収穫を待ちきれない様子でした。

## 日々の草取りと水やりをこれから頑張ります!

能代市立浅内小学校の5年生児童9人は6月21日、学区内で「白神ねぎ」を栽培する(株)あさかわファーム伊藤隆一代表取締役と、JA営農指導員が講師を務め、ねぎの定植作業を手ほどき、収穫予定の11月に開催される学習発表会で父兄や来賓への販売を予定していることから、自らの手で全て栽培しようと、畝立て機も児童自らが操作して、肥料を播き、定植しました。

原田妃梨さんは「全ての作業が初めての体験。まっすぐに植えることが出来てよかった。」と笑顔。松山璃玖くんは「収穫までの間水やりなどのお世話をしっかりと頑張りたい。」と意気込みます。



管理機を慎重に操作する児童と見守るJA職員